

# むすぶ28

## 弥彦村社会教育だより

令和5年3月23日  
弥彦村社会教育委員の会

### 《できることに・・・R4年度を振り返り》

新型ウィルス感染症も下火となり、ようやく世間に活気が戻ってきたように思います。ここ3年間は、様々な対策の下で、多くの活動が制限されました。社会教育にあっても、活動場所や時間・人数・方法の制限が行われ、多くのイベントや行事が中止になりました。

弥彦村社会教育委員の会では、「委員一人一人が学校・家庭・地域をつなぐパイプ役となり、家庭・地域の教育力の向上と地域づくりのため、行政と村民をつなぎ、社会教育のネットワークの形成に取り組むこと」を目的に活動しています。しかし、この3年間は、活動を推進することが大変でした。それでも、こんな状況だからこそ村を盛り上げようと、「できることに取り組む」を合言葉に活動を行ってきました。

今年度、実施した新たな取組は、大きく2つあります。1つは「お宝フォトウォークラリー」のイベント開催です。R3年度の地域づくり交流会で出されたアイデアを実践しようと、委員の会で企画・運営しました。村民11チーム43名が参加して、得点を競うウォークラリーは、参加者に好評でした。何より、中学生が大勢参加してイベントを盛り上げてくれました。2つ目は「あいさつ運動の活動」です。広報紙やチラシといったこれまでの周知方法に加え、災害無線を活用した朝の周知放送、のぼり旗の設置、委員と賛同者による小・中学校校門付近でのあいさつ活動の実施な



お宝フォトウォークラリー  
スタート前



小学校でのあいさつ活動

どで、あいさつ運動の浸透を図りました。多くの皆さんから、委員に活動についての声を掛けていただき、活動が周知されてきていることを実感しています。

しかしながら、社会教育委員の活動の周知と協力者の確保は、まだまだと考えています。委員のほとんどが仕事を持ち、全員が活動に参加できることがほとんどない中で、「できる時に、できることを、楽しく協力して行う」を合言葉に、次年度の活動を推進して行きます。村民の皆さんのご理解とご協力をお願いいたします。(文責 渡辺)

## 《延期して実施：第8回地域づくり交流会》

2月18日(土)、弥彦村農村環境改善センターで「第8回地域づくり交流会」を11月から延期して開催しました。今回は、小学生2名、高校生1名を含む37名の参加がありましたが、設定日が良くなく、中学生の参加を得ることができませんでした。

委員長の開会のあいさつに続き、今年度の委員の会の取組について説明しました。昨年の交流会で出された意見を実践に移した「お宝フォトウォークラリー」と「あいさつ運動」の取組についてパワーポイントを用いて説明しました。説明の後には、参加者から質問・意見を受け、次に行う協議のムードが高まりました。

続いて、今年度掲げた協議テーマ「**地域を盛り上げるために行政と協力してやれることはなにか**」について、6つに分かれてグループ協議を行いました。最初に自己紹介をして和やかなムードになってスタートしました。「村の問題点や改善したい点」を出し合い、それに対する対策について意見を出し、その意見を実現できるものに高める協議をしました。空き家・空き地問題、子育て・子ども支援、村民同士の交流の場づくりやイベントの開催、SNSを活用した情報発信の工夫など、各グループとも問題点や改善点が沢山出され、その対策のためのアイデアが出て、活発な意見交換が行われました。時間内では収まらず、協議の時間を延長しました。

その後、他のグループを回って、出された意見の説明を受けるグループ間交流を行いました。終始和やかな雰囲気の中で楽しく意見を出し合い、世代によって異なる意見やアイデアに熱心に耳を傾けていました。

最後にアンケートを取り、終了しました。アンケートでは、「交流会の進め方」「交流会の内容」89%以上の方が、「よい」と回答していました。また、「参加してよかったか」の問いに「とてもよかった」(90%)「よかった」(10%)と全員肯定的に評価し、「地域づくり交流会に参加したいか」には、74%が「積極的に参加したい」と回答しました。

いただいた意見には、次のようなものがありました。

- ・若い世代の人も入り、有意義だった
- ・他地域で取り組まれている地域づくりについて事例研修をしたい。
- ・村民同士の貴重な交流の場だと思います
- ・是非続けていっていただきたいです
- ・新鮮なアイデアを聞きたいので、小中学生が多く参加出来るようにしてほしい。
- ・改めて他世代交流の大切さを感じました
- ・たくさんの意見やアイデアが聞けて良かったです
- ・楽しかったです
- ・出たアイデアの1つでも実現されることを願っています
- ・各グループに1人ずつ村外の人がいると色々な意見が出ると思う

大勢の方にご参加いただいたお陰で協議が盛り上がり大変有意義な会となりました。今回出された貴重なご意見・アイデアを、社会教育委員の会と行政がタッグを組んで様々な場面に反映させていきたいと思っております。

(文責 高田)



グループ協議の様子



グループ間交流の様子

## 《スポーツ少年団紹介No.6：JVキッズ》

今回は、弥彦村スポーツ少年団よりバレーボールのJVキッズの皆さんの紹介をさせていただきます。監督は石塚誠一さん、コーチは丸山稔さん、入倉貢さんの3人で指導されています。

現在チームに参加している児童は19人で、毎週火曜・木曜・土曜日の午後7時から9時まで、弥彦中学校体育館で練習を行っています。土・日曜日、祝日には、県内外の大会に参加しています。練習内容は、体力づくりの基礎トレーニングを行い、バレーボールの基本技術のパス練習・レシーブ練習・スパイク練習・ブロック練習等を行い、試合形式の練習に繋がっています。指導を進める上で、怪我をさせない事、悪い癖を身に付けさせないこと、正しいフォームを身に付けさせるという点に気を付けて指導を行っているそうです。中学生・高校生になったときに、優れたパフォーマンスが生まれるように配慮しているためだそうです。

ウィルス禍において大変だった点は、大会や試合ができなかったことだそうです。大会や試合は、いわゆる普段の練習の成果の発表会と思っているので、大会や試合が自粛され大勢の前でプレーする事ができなかったこと、観覧者の人数制限で保護者が応援できなかったことで、子どもと保護者の練習のモチベーションを保つのに大変苦労したそうです。

活動を始めてからの代表的なエピソードは、平成29年7月の柏崎市主催「第20回しおかぜ杯」で、第1回から連続20回連続出場したことで、JVキッズだけが表彰を受けたことと、1台のバスに弥彦中学生と小学生の2チームを連れて県外に遠征し研鑽を積んだことだそうです。

今後の方針としては、6年生が卒業時に、子どもたちと保護者の皆さんが、バレーボールをやってきて良かったと思える活動を続けること。そして、1年生から6年生までの練習を休まず頑張れる男児・女児を育成することだそうです。そのために、合宿・遠征の他のお楽しみとして、BBQ、餅つき、親子バレーなどの行事を設け、子どもたちのやる気の維持と、保護者の参画を働きかけているそうです。  
(文責 阿部)



吉田大会集合写真



遠征でのお弁当風景

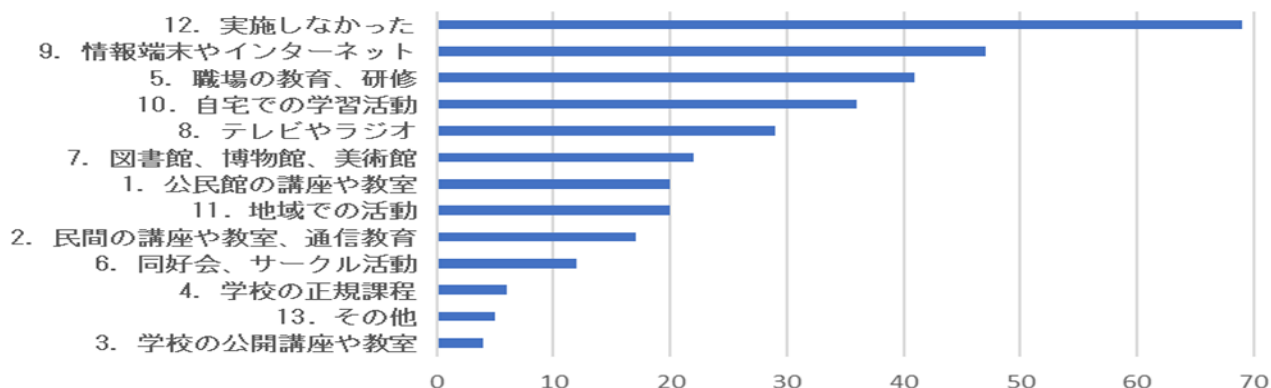
## 《生涯学習意識調査の結果報告》

弥彦村公民館では、昨年12月1日～1月20日の期間、無作為に抽出した村内在住の方200名に、弥彦村の生涯学習に関する意識調査を実施しました。調査結果がまとまりましたので公表いたします。お寄せいただいたご意見は、今後の公民館活動等の参考とさせていただきます。御協力いただきました皆さん、ありがとうございました。なお、詳しい調査内容は、村のホームページのお知らせに掲載いたします。

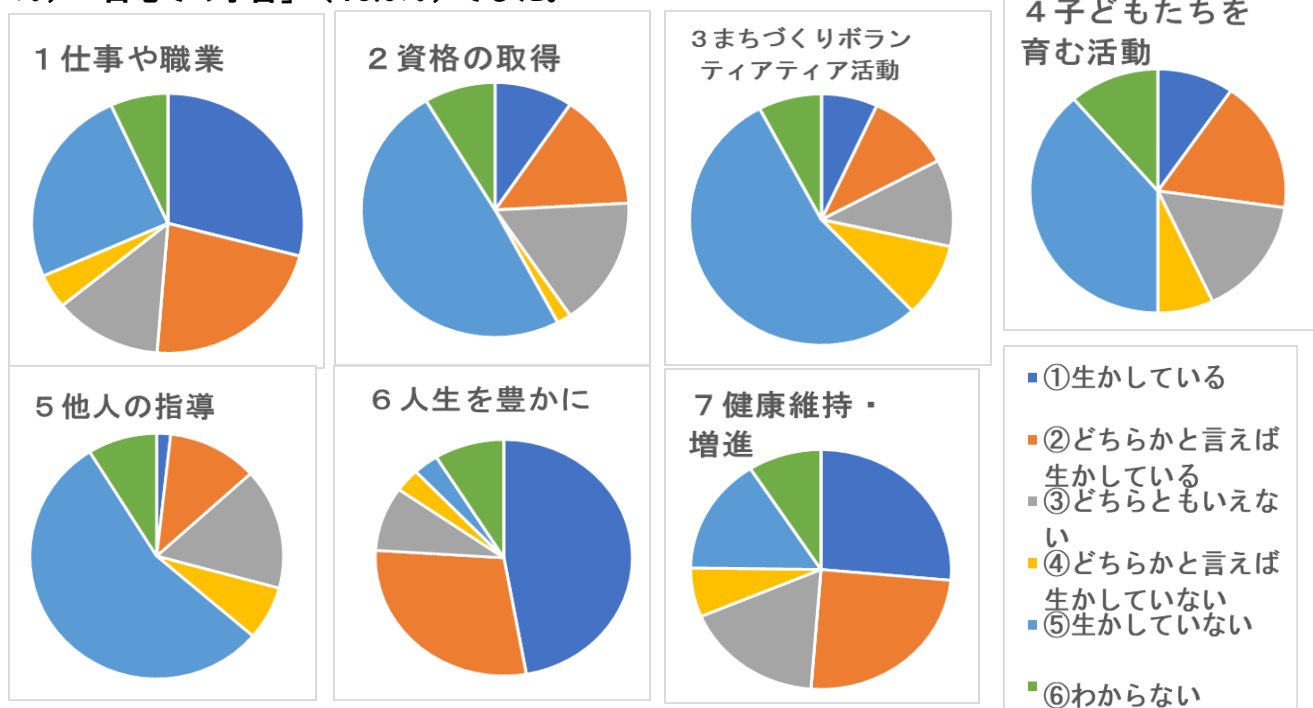
以下に、調査の一部を掲載します。

(文責 堀)

# 1 場所と形態



1年間の生涯学習活動の場所と形態は、全体の約69名(34.5%)の人が「実施しなかった」と回答しました。多かった回答は「情報端末やインターネット」(23.5%)「職場の教育、研修」(20.5%)「自宅での学習」(18.0%)でした。



身に付けたものをどのように生かしているかの問いで、最も割合が高かったのが、「自分の人生をより豊かに」(74.1%)で、次いで「健康維持・増進」(52.1%)「仕事や職業」(51.3%)でした。逆に生かしている割合が低かったのが、「他人の指導」(13.3%)、「まちづくり・ボランティア活動」(17.2%)で、「資格の取得」(24.1%)、「子どもたちを育む活動」(27.2%)の順でした。

※生涯学習意識調査データのまとめは、村ホームページの「お知らせ」をご覧ください。

委員長	渡辺 和也 (矢作)	副委員長	柏原 路子 (麓二区)
委員	半間 義之 (矢作)	石井 亘 (井田)	阿部 朗子 (弥彦)
	柏原 貴也 (麓二区)	石塚 孝也 (矢作)	東樹 薫 (美山)
	高田 美鈴 (弥彦)		
事務局	堀 隆行 ・ 白井 宏侑 (教育課)		
※ ご意見、お聞きになりたいことがある方は、近くの委員、もしくは、教育課事務局にお電話ください。(事務局 94-4311)			